

**平成26年度 第6回
千葉市本庁舎整備検討委員会議事録**

- 1 日 時： 平成27年1月13日（火） 午後13時30分～15時30分
- 2 場 所： 千葉市役所議会棟 第3委員会室
- 3 出席者： （委員）
柳澤委員（委員長）、大槻委員、菅野委員、
小久保委員、指田委員、元木委員
（事務局）
曾我辺資産経営部長、裕戸管財課長
内谷庁舎整備室長、布施管財課長補佐

4 議 題

- (1) 基本計画（案）の骨子について
(2) その他

5 議事の概要

- (1) 基本計画（案）の骨子について
事務局より資料に基づき説明の後、質疑応答、意見交換を行った。
- (2) その他
今後の委員会日程にかかる事務局案について、委員の了承を得た。

6 会議経過

(1) 開会

（布施管財課長補佐） 定刻となったので、平成26年度第6回千葉市本庁舎整備検討委員会を開会する。千葉市情報公開条例第25条に基づき本会議は公開され、議事録及び資料も追って公開となるので、予めご了承いただきたい。また、傍聴に際しては、注意事項を守ることをお願いしたい。

本日、稲葉委員、近江委員、関橋委員、関谷副委員長、玉井委員、古谷委員より欠席の連絡をいただいている。また、菅野委員より遅れるとの連絡をいただいているが、半数以上の委員が出席しており、本会議は成立していることをご報告する。

（柳澤委員長） 本日の会議は議題が2件ある。1件目は基本計画（案）の概要である。これまでの意見を基に事務局で作成したものである。また、模型を準備しており、その模型を使いながら、新庁舎の配置や使い方について議論していきたい。

(2) 議題

ア 基本計画(案)の概要について

(事務局 内谷庁舎整備室長 資料説明)

(柳澤委員長) 論点1の新庁舎の使い方については資料1にて整理がされている。将来の変化への柔軟性の確保、通常業務の遂行性の確保、非常時の業務継続性の確保について整理されている。内容については、大枠は問題ないと考えている。本日は、資料2の具体的な取り組みに対して議論したい。先ほど事務局より説明があったが、気になる部分があれば指摘してもらいたい。

例えば、将来への変化の中で「フレキシビリティのあるレイアウトが取れる庁舎」とあり、開放的なフロアとはあるが、場合によっては会議室を配置したり、機密情報への配慮が必要な場合もある。また、可動間仕切りを採用すると遮音性が低下するケースもある。さらに、階高や床面積の余裕や、スケルトンインフィルを採用した場合は、面積増につながり、結果コストアップにもなるので、どこまでやるのか、あるいはメリハリをつけるのか、そういった考えも必要かもしれない。

その他、貸出しの検討、実証実験等、これまでタブー視されていた『稼ぐ』という点にも言及している。その他、窓口やフロント部分は低層にするとか、多目的スペースや食堂配置に関する意見、自然エネルギーの採用や、危機管理センターの中間階配置など、重要な部分に関するご意見をいただきたい。

(元木委員) 一番大事なのは通常業務である。政令指定都市の本庁であり、政策立案業務や申請等の機会が多く、一般的な庁舎と利用の仕方が異なる。抜けている点として、市長がランチミーティングを実施しているが、区役所では開催できないので、そうした場所を整備してはどうか。市長とのつながりもできる場所になる。

議会は調整中とあるが、議員もいる場所であり、そうした方々との接点としても考えるべきではないか。政策にも反映することができるかもしれない。今のままだと、議会は市民から遠いイメージである。

(柳澤委員長) 独立した項目として整理するのだろうか。どこかに組み込むなら利便性かもしれない。重要な話として市長の空間をどうするか、議会との関わりをどのように整理するかは記載されていない。議会のあり方や市長ゾーンの扱い等の姿勢を示すということになるのだろう。

(元木委員) 市民とのつながりを重要視しているので、プラン的に組み込むべきではないか。市の広報で様々な募集がされているが、具体的にアクションを起こす人が少ない。本庁舎に行けば何かできるとか、身近に会話できるとか、もっとわかるような場になれば

市民の政策に対する考え方や姿勢も変わってくるかと思われる。

(柳澤委員長) 事務局側の見解はどうか。吹抜け越しに市長室が見えるとか、市民と市長や議会との関係を書きしておく必要はないか。

(内谷庁舎整備室長) 概要版の機能別方針に入れることが適切かもしれない。トータルで庁舎に何が必要かの整理は資料2で実施している。市民がどう市役所にかかわるかは大きな問題である。市としての情報提供、収集、発信といった機能について意見をいただければと考えている。また、次回等において、通常時、将来の変化の情報収集、発信について議論していきたい。

(大槻委員) 市長との懇話会は、これまで議会や庁舎に来て開催していたが、27年度からは、区役所に来てやってもらうことになっている。

(柳澤委員長) そういう特性や理念を具体的な空間としてどう反映させるかを、求められることとなる。

(元木委員) 見えるというのが大事である。隠れていたら認識できない。直接見えるのが大事である。せつかく新しく建設するので、直接見え、市民が参加していく庁舎にできるといいのではないか。

(柳澤委員長) 利便性の部分に市民利用というキーワードがあるが、市役所と市民のつながり、開放性、発信性といった内容も加え、市民利用スペース、市長や議会を含めた対話を促すような空間の整備を、項目をたてて整理しておいた方がいいかもしれない。

(元木委員) 区役所での実施もいいが、各区の内容を調整する場面も生じる可能性があり、各区の町内会等からの、いろいろなアイデアを集約する場所を市役所として整備すべきではないか。

(柳澤委員長) こういった内容は加えていく方向で検討したい。事務局で検討をお願いしたい。その他意見はどうか。指田委員、非常時に関する部分について意見はないか。

(指田委員) 市民の窓口部分について、インターフェイスの設計をどうするかが課題である。今までできてなかった部分である。市民とのつながりや情報の発信性などに関連する部分ではないか。インターフェイスの件は、セキュリティとの関係も常に問題となる。有事の際の対応で、危機管理機能を中層に設置するとあるが、一般に災害対応時はエレベ

ーターが使えず、縦の動線の負荷がかかる。そのためには低い方に配置する考え方もある。アメリカのペンタゴンは、そうした考えを踏まえ、5階建ての計画としている。ただ、高潮、津波への対応も考慮すると、配置のフロアはかなり限定されることとなる。

危機管理の際は、市民対応部分が全部クローズされるわけではなく、市民との関わりがでてくる場所がある。例えば、罹災証明や中小企業関係の手続きである。罹災証明は区役所で対応するのかもしれないが、特例措置の話となると本庁対応となるだろう。市民との接点をどこでやるか考えないといけない。また、ボランティアセンターを区か本庁か、どこで対応するのか。インターフェイスをどうするのか。その役割を設計せねばならない。フロント部分でも、そうした市民対応スペースを確保しないとイケない。

また、セキュリティ面を考えると、バックにフロント業務が入ることは避けないとイケない。どの部分にどれだけの業務があるのかをしっかりと見極めないとイケない。面積算定で官公庁基準はあるが古い面がある。危機管理スペースはとられていない。そういった意味も含め、面積は広く確保する必要ある。

(柳澤委員長) 非常時は、通常時のフロント/バックがそのままではないだろう。帰宅困難者対応はあるが、それ以外の業務部分のフロントがどこまでかを、文章としてどのように入れておくか。また、インターフェイスということをどうするか検討が必要だろう。

(内谷庁舎整備室長) 非常時のフロントやインターフェイスの考え方は未整理であった。具体的には設計段階での協議となるかもしれないが、時間も有り検討していきたい。

利便性で利用者へのアクセスという部分があるが、ハードとして捉えるかソフトとして捉えるか、その違いもあるかもしれない。尚、ソフトだけに捉えないように、今後も検討していきたい。

(柳澤委員長) 具体的には、文章等をどのように変えていくか。

(指田委員) 防災拠点性のところに入るのかもしれない。市民対応のインターフェイスに配慮した庁舎とかといった書き方もある。

(小久保委員) 資料1に議会調整中とあるが、どう調整していくのか。配慮すべき点として、建物を高層/低層/別棟という点がある。また、危機管理センターの位置を高い部分に配置できないとなると、そういった部分を含めてメリット/デメリットを整理すべきではないか。

資料2についてであるが、位置として、みなと公園との連携がしやすいとあるが、どういった意味か。危機管理面から考えると、もう少し連携の仕方を検討すべきではないか。

帰宅困難者対応や罹災証明は区民センターがやるのでは。ただここでは、中央区として

の役割もあるため、区民センターを原則としつつ、本庁との役割分担によって、スペースの大きさが変わってくるのではないかと。市民に近いものは区民センター、できないのは本庁、そういう仕切りを考えるべきであろう。

さらに、できれば地下通路をうまく使えないか。国道を地下道を使って渡れるようになるなど、地下道の利用の仕方もあるのではないかと。

個別の災害対応とあるが、災害別に具体的に考えるべきであろう。高潮、火災、原発、それぞれによって、スペースと防備が違うのではないかと。

見せるということ、インターフェイス面、市民が来てPRできるという点について、危機管理センター内に見学通路を設けたり、市民スペースの中に啓発機能があった方がいいのではないかと。

役所は文書が膨大になる。この文書保管の仕方を検討すべき。永久保存する文書、統一的な文書、各課の文書等を仕分けするほか、できるだけ外に出すことを考え、文書の保管スペースを減らすようにすべきである。

(柳澤委員長) 議会の話はどのように整理したらよいか。使い方についても少し言及するのか、支障のない範囲で整理するというやり方もある。

(内谷庁舎整備室長) 何かしら文言は入れる必要がある。建物配置については、3つのパターンぐらいと考えており、どれが議会棟、どれが危機管理センターとかではなく、どこに建てるべきか、階数のイメージはどの程度かを検討する程度で考えている。

個別災害をどうするか、オペレーションをどうするかは形が見えてから議論したい。

地下通路は設計段階での検討だろう。当敷地のリスク上、あまり地下を設けるのはリスクがある。ただ、地下利用は検討する。汚水層や水瓶（受水槽）の設置も考えている。

(柳澤委員長) 議会を含め各機能を何階に配置するかといった内容は、この段階では決めないこととなるのだろう。

(曾我辺資産経営部長) 議会棟部分は議会側で作成している。基本計画には、その内容を反映していく予定である。議会棟建物が現在分かっているが、趨勢として、政令指定都市の中では、同様のケースは3市ぐらいである。他は、建物自体としては一体で動線を分けている。

公園のあり方についてであるが、整備後45年経っており古いのは事実である。災害対策の際、樹があり活用できない面もある。ただ、本基本計画では、どういう方向性がいいかといった程度しか書けない部分もある。

災害対応の関係は基本的に区で実施する。この前は、美浜区で震災の影響が多く、市の職員（本庁職員）が行ってサポートした。今後どうするかは次の議論である。

帰宅困難者対応については、大雪時に帰れない市民が多かった。千葉駅周辺で公共施設を開放したが収容できなかった。そこで、本庁の正庁と地下の食堂を開放した。ただ、市民の動線とセキュリティの関係で、各階で職員を配置し、管理を行うこととなった。この点については設計で考えるべきであろう。文書については検討していくことを考えている。

(柳澤委員長) 議会の件は、議会から出てきたものを一度委員会で議論し基本計画に出す。基本計画では調整中と記載することにならないということか。

(内谷庁舎整備室長) その形がとれば良いと考えている。進行具合は相談したい。

(柳澤委員長) 他の性能とも絡むので調整させてほしい。みなと公園の使い方は別の検討かもしれない。モデルプランでみなと公園との連携が一つの評価軸となっており、庁舎配置にも関わると考えるため、ある程度、非常時にはこう使うとか、市民の避難場所とか、少し公園側のイメージをつくっておく必要がある。

市民サービスセンターは集約すると言い切っているが、非常時はどういう機能となるのか、罹災証明等の機能も入るのか、そのあたりを整理してほしい。

(菅野委員) 開かれた庁舎については賛成である。公募委員となり、直接コミュニケーションすることにより本庁舎との距離が縮まったとの印象をもっている。市長と全員が話すことは難しいが、そういう機会があれば良いと考える。せっかく庁舎に来るのなら、模型などがあり、平常時と非常時の機能を告知するような場所になれば良いと思う。

規模について、本庁舎以外に、コミュニティセンターに分散している組織をまとめた場合、今の庁舎の何割増しとなるのか。また出先機関はどのくらいあるか。

(内谷庁舎整備室長) 概要版3ページに現有面積との比較を記載している。

(菅野委員) フレキシビリティのあるレイアウトとする一方、災害安全性の確保とかあるが、両者は共存しうるのか。地震で中の物が動くとかそういったことはないのか。

(内谷庁舎整備室長) 什器や書棚類が自由に動くことはない。

(柳澤委員長) 階高や分棟等の形式にもよるが、技術的な部分に関しては設計の段階で対応していくのだろう。オープンにしたから家具が動くということではない。

将来の変化への柔軟性について、フレキシビリティ向上には、1フロアを広くすることがいいが、建物配置は現庁舎を避けた配置が必要である。もしくはそこまでやらないか。余裕を持つということは過剰になる分はあるので、そうした点を含めた検討が必要である。

バルコニーの設置等については、メンテナンス上は有効だが、あまり実例がない。スケルトンインフィルとする場合、設備の更新はしやすいが、イニシャルが上がる場合もある。全体的にイニシャルを抑える方向にするのであれば、検討が必要かもしれない。

(柳澤委員長) 模型の周りに集まり議論したい。モデルプランについて、現庁舎の北側に配置する場合は自由に計画がしやすい。デメリットはモノレールからは遠く、ロングブリッジとなる点である。現庁舎とモノレールの間に建設する場合は、建物が横に長くなる。移動の動線も長くなる。その一方、モノレール駅には近くなる。

別案としてL型に建設する案もある。みなと公園側に張り出すように計画している。分棟としてもいい。真ん中(Bエリア)と右(B・Cエリア)は同じ考えである。考慮すべき点として建物高さにも絡む。さらに、一体で作るか分棟の組み合わせかにも影響する。

全ての前提として、今の庁舎は壊さないでつくるということが条件である。

【Aエリアについて】

(柳澤委員長) Aエリアはモノレールからのアプローチが遠くなるが、設計の自由度は高く中庭等を設けることもできる。また、敷地活用におけるフレキシビリティが高く、土地利用のポテンシャルが高い。

(柳澤委員長) Aエリアは低層の建物も可能であり、指田先生が事例に挙げたペンタゴンのような考え方も可能である。

(日本設計) 庁舎までのブリッジは約100mである。

(元木委員) コストに余裕があれば、モノレールからのデッキを幅広い人工地盤にすることで、2階レベルに広場を設けることも可能である。

(小久保委員) 構造上、地下は何階までつくれるか。また、周辺環境から考慮すると地上何階が適正か。

(日本設計) 地下は何階でも可能であるが、膨大な費用がかかるので本計画では考えにくい。今回は地上は17階までの案としている。

【Bエリアについて】

(柳澤委員長) Bエリアでの1棟案は、モノレールに対して壁のような印象である。

(菅野委員) メンテナンスを考慮すると高層案と低層案とどちらが適しているか。

(柳澤委員長) 詳細は設計段階によるが、高層案は設備を集約できることから多少メリットは見込める。敷地内で液状化が起こる可能性があるが、地盤の観点からみると低層案と高層案のどちらが適しているか。また、免震構造の場合、高層案は不利ではないか。

(元木委員) 高層案は地価工事や基礎工事分の金額が上がる。構造も SRC 構造となるので増額となる。低層案も建築面積に増加に比例し、基礎などの費用は上昇する。

液状化が問題となるのは建物それ自体よりも、駐車場部分や外構部分である。これらをいかに地盤改良するかが問題となる。

(柳澤委員長) 高層になるにつれて免震構造はやりにくくなるのか。

(日本設計) 現状、地下約 25～26m が支持層となっており、地下 1 階を設けたとしても杭を打つ必要がある。また、それに伴う地盤改良はしなければならない。

以前は、高層案は免震的には不利であったが、現状は上部を制振構造で固めて下部を免震ゴムにのせることで免震構造を実現できる。

【B・C エリアについて】

(柳澤委員長) B・C エリアに建設すると分棟になるので高さを抑えることができ、公園を借景とした執務空間を実現できる。

(小久保委員) 建設期間中、現庁舎は壊すのか。

(柳澤委員長) 現庁舎の低層部分を取り壊し、庁舎・議会機能を継続したままで工事を行う。竣工・機能移転した後、現庁舎の解体を始める計画である。

(元木委員) 新庁舎は築何年までもつのか。

(日本設計) 築 50 年以上、100 年を目標とするのではないか。

(指田委員) 100 年を見込むのであれば、首都直下型地震が起こることは想定したほうがよい。

【敷地活用について】

(柳澤委員長) 基本計画段階では一つの案に絞るわけではなく、評価基準やモデルプランをいくつか提示する程度でよい。

(小久保委員) どの案にも屋上にヘリポートを計画することはできるか。

(日本設計) 本日提示しているモデルプランの奥行きは、最低でも 30m 確保しており、全ての案で計画可能である。

(大槻委員) どの案でも議会棟は内部に入り得るのか。

(日本設計) 入る。屋上に突き出したような外形として計画もできる。

(元木委員) 国道側の道路から車で入る場所は限定されるのか。

(日本設計) アンダーパス建設や電気室、排気設備により、入り口は二箇所に限られる。A エリアの場合、北側の搬入道路の位置に留意して計画しなければならない。

(元木委員) その場合、敷地の東西方向に一般車と従業員車の動線を分けることも想定できる。

【基壇案（低層部:フロント、中層部:バック）について】

(柳沢委員長) オフィスや庁舎によくある形式でフロント/バックを明確に分けることができる。

(指田委員) 模型上では駐車場の配置場所が難しく使いにくい。

(日本設計) 建物 1 階をピロティとして駐車スペースを設けたり、現庁舎解体後に駐車場を造成することもできる。

(元木委員) 1 階は高潮対策でピロティということが想定できる。

(小久保委員) 敷地を東西に横断するような地下道を設けたい。

(日本設計) 国道側は地下道建設しており、その下を通すとなると実現性が低い。

(元木委員) 既存のペDESTリアンデッキを延長利用して敷地を東西に横断できるのではないかと。既に EV もエスカレーターもついているのでユニバーサル対応もしている。

(曾我部資産経営部長) 今回工事とは別であるが、いずれ予算が組めればペDESTリアンデッキの拡張工事は可能である。

(元木委員) 1階は高潮対策でピロティということが想定できる。

(小久保委員) モノレール駅を市の意思で改修できるのか。

(曾我部資産経営部長) 県も絡んでいるので移設等は困難である。デッキの可能である。

(小久保委員) 千葉みなと駅から直接つながるデッキもあるとよりよい。

(柳澤委員長) 千葉みなと駅から来るのは意外と遠い。デッキを作ることで近くなり便利になるかもしれない。

(小久保委員) 市役所に来るまでが遠いんです。だからもう少しこの公園をうまく、通路を変えて、防災公園として整備すればよい。

【Aエリア（国道側）にL字案】

(元木委員) B・Cエリアに建設してしまうと、公園と敷地のオープンスペースとの一体利用の妨げになる。アクセスが制限されている国道側に建設したらどうか。既存の議会棟は先に解体し、議会機能を建設期間のみ移転できないか。

(大槻委員) Aエリアの国道側でさらに北側に寄せて建設すれば問題ない。そのときに建物をL字型に計画するとよい。

(曾我部資産経営部長) 費用がかからないことを前提にすると、議会の仮移転は採用しがたいが、本委員会では特に制約なく考えてよい。

(菅野委員) 最初に議会棟を建設すると、現議会棟の取り壊しが可能であり、そこに新しい建物を建設できる。JRのある千葉みなと駅からアクセスしやすいのはよい。モノレールに乗り換える必要がなく利便性が高い。

(柳澤委員長) L字型案の欠きこんだ部分に低層のフロント棟を配置できる。オフィス空間が南向きなので執務環境もよい。議会を低層棟の上部に配置もでき、独立性も保てる。

(元木委員) 千葉みなと駅や周辺ホテルと連携し、2階レベルのブリッジでつなげたらど

うか。食事する場所なども市役所前はほとんどないのでいいと思う。

(柳澤委員長) 議会棟と庁舎は1階ではなくて上のデッキでつないで、下は何か。

(元木委員) バックヤード的な整備スペース的なものでもいい。

【A エリアに2列案】

(指田委員) 分棟にする場合、フロントのスペース容量が入るか留意しなければならない。東西方向に2列2棟で配置されている案があってもいいのではないか。

(柳澤委員長) 南側をフロント(低層)、北側をバック(高層)としてリニアに配置できる。また、低層棟の最上階に議会、展望レストランなども想定できる。

(小久保委員) 分棟案の場合、ビル風などの問題はないか。いずれの案も分棟型の場合、ブリッジ等をつなげることを検討したほうがよい。モノレール駅側に商業施設を誘致する可能性があるならば、新庁舎に展望レストランなどはいらなくてもいいかもしれない。

(日本設計) 風の影響は特に問題ないと思うが、角を削ったり屋根をかけたりするなど設計上の工夫は今後できる。

(菅野委員) 展望室のようなものは設けるのか。

(柳澤委員長) 議会棟の上ぐらいに展望レストランをつくれば、ぐるっと見えますね。フロント/バックの間に庭園やレストランを設けることも可能である。

(菅野委員) 現在、市の職員は昼食はどのようにしているのか。

(曾我部資産経営部長) 管理職は有事のためになるべく庁舎内で食事をするようにしている。若手は外食しているが、お店は少ない。

(大槻委員) 駐車場400台を地下や立体駐車場にすることで敷地を有効活用できる。

(小久保委員) 災害時などは公園を駐車場として開放できるとよい。

(柳澤委員長) 駐車場全てを平面的に考えずに多少立体的に収容できるようにしてもよ

い。

(元木委員) 高潮対策も考慮すると、ピロティなどが効果的である。その下部を駐車場としてもよい。

(指田委員) 災害対策としては、空地を設けることも重要である。

(柳澤委員長) せつかくなので現庁舎の一部をリノベーションして活用したい。外装だけでも利用できないか。

(日本設計) 免振レトロフィットなど費用をかければできないことはない。

(小久保委員) 現庁舎は残すべき歴史的価値があるようには思えない。

(指田委員) それに加えて維持管理も含めたコスト対効果がよくない可能性がある。

イ その他について

(内谷庁舎整備室長) 次回は1月28日水曜日午前10時から、場所は中央コミュニティセンターで開催を予定している。尚、現在前回議事録を作成中であり、出来次第確認いただく予定である。最終的には委員長の承認を得て配信する予定である。

(柳澤委員長) 以上で全ての議題を終了したが、最後に全体を通して質問とかご意見とかないか。

(小久保委員) 首都圏の各政令指定都市の弱みや強みを整理してもらえないか。千葉であれば、敷地が広いことや、陸海空の輸送が使えることなどがある。各都市の性格を整理し、補完機能や応援依頼、支援体制といった内容を、災害対策本部機能の中に盛り込むことができないか。県とのつながりもあるが、政令指定都市間の連携についてもふれておくべきではないか。各都市の庁舎の建物構造を比較することでもよい。

(内谷庁舎整備室長) 横浜市は基本計画が策定されたばかりである。政令市では建替えをしているところがほとんどなく、計画中的のものも具体的な建物配置までは進んでいない。連携についてはオペレーションの話であるともいえ、基本計画でどこまで言及できるか検討が必要である。

(元木委員) 小久保委員の指摘について、意味がわからない部分がある。

(柳澤委員長) 情報収集において困難な部分があるかもしれない。

(小久保委員) 各都市において、どのような部分で悩んでいるかが把握できればいいかもしれない。

(曾我辺資産経営部長) 川崎市については建替え予定であるが、駅前の敷地で100m以上の高層建物とするようだ。横浜市は、関内地区でURの用地を購入し150m以上の建物を建てるようだ。横浜市の課題は、役所が移転することで、今の場所がさびれることが懸念されている。さいたま市については現状そういった動きはない。各市で特徴があれば情報提供を行う。

(柳澤委員長) それぞれ課題があり、どう千葉に活かしていくか難しい部分もある。今説明があったような話があれば是非とも情報提供してほしい。

(柳澤委員長) それでは、以上で今日の議題は終えたいと思う。委員の皆様のおかげをもち円滑に議事を進行することができたことを感謝する。これで終了する。

(了)